

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 わかば会
施設名	草加にじいろ保育園
報告者（役職）	梶 直美（園長）
住所・連絡先	埼玉県草加市八幡町336-1
	☎ 048-936-2488
	E-mail jim@nijiirrohoikuen.jp

○タイトル（保育計画）

「遊び」は「学び」の宝箱

○主な助成備品

平均台、積み木、ひも通し、ソフトブロック、大型かるた等

1. 保育計画策定の目的

草加にじいろ保育園は、草加市内北部の待機児童の解消や地域の要望により、平成26年4月に開園した。本園の周りには田畑が多く、自然に恵まれている反面、公園など子どもが自由に遊べる場所がとても少ない環境にある。本園の子ども達の遊ぶ姿を見て、より良い運動能力の発達、社会性を身につけていくにはどのようにしていったら良いか考えた。そこで、助成品を利用し、手先を使った遊びやバランスをとる遊具などで、それぞれの年齢に合った発達を促していこうと取り組んだ。

2. 具体的な実施内容

- (1) 「レインボーバランスストーン」「ウェーブバランス平均台」「カラー運動棒」
【2歳児】



初めは保育者と手をつなぎながら、短い距離を渡ることから始めた。でこぼこした平均台を渡することは、不安定な体勢になるので少し怖がっていたが、足の指に力を入れるように指導すると体が安定し始め楽しめるようになった。室内で何度も練習をし、アップダウンがある平均台もバランスをとりながら、手をつながなくても渡れるようになった。運動会では、親子競技の中に取り入れ子ども達の姿を保護者に見てもらうことができた。

【5歳児】



(2) 「入退場門」

子ども達と共にコースを作り、じゃんけんゲームをする。グループで競うことで、チームの仲間を応援したり、勝つと仲間同士で喜んだりする姿が見られた。はだしでレインボーウェーブの上をバランスをとりながら何度も行き来をすると、あわてるあまりにバランスを崩してしまう子どもも多くいた。落ちたら最初からスタートするなどのルールを付け加え、集団遊びとして楽しむことができた。



本園は園庭が狭く、運動の発表の場としている運動会を近隣の小学校で借りて行っている。助成品の入退場門を今年度設置した。可動式の軽い門は持ち運びにもとても便利で、子ども達も華やかな飾り付けに気持ちが高まり、楽しい運動会となった。

(3) 「基本積み木」「ベビートイプレーセット」「ジャイアント玉ころがし」「プリモコパンソフトブロック」「ビッグひも通し」「スーパーひも通し」「生活かるた」

【0歳児】



「ベビートイプレーセット」

優しい木の感触を楽しみながら、握る・掴む・引っ張るなどの指先を使った遊びを楽しんだ。指先を使うことで発達を促し、食事の時もスプーンを使って口元まで食べ物を運べるようになってきた。また、小さなものも指二本でもつまめるようになってきた。

【1～3歳児】



「ジャイアント玉ころがし」

保育士が玉ころがしのコースを作り上げると、玉を転がし、その玉の行方をじっと見つめていた。しばらくすると、玉ころがしのコースを壊し始めた。どのようなになっているのか確かめたかったようだ。初めは玉の動きが楽しいだけであったが、仕組みを不思議に思う探究心を刺激されていた。3歳児を中心に再度組み立てようとする行動が見られ、保育士とともにコースを作り上げ、うれしそうにしていた。

【1 歳児】



「プリモコパンソフトブロック」

やわらかい素材のブロックを、高く積んでみたり、横に並べて電車に見立ててみたりして遊んでいる。一つ一つが大きいので、室内でも全身を使って遊びを楽しむことができる。1 歳児のクラスでは協力をして作り上げることはできないが、他の子どもが作っているものをまねして作る姿が見られたり、円柱のブロックは横にすると転がることに気がつき、坂を作って転がそうとする姿も見られたりした。「まる」「さんかく」「しかく」など遊びながら学ぶこともできる。

【1～5 歳児】



「ビッグひも通し」「スーパーひも通し」

1～3 歳児はビッグひも通しを使って遊んだ。穴が大きいので、指先でひもをつまみながら穴に入れ、引っ張り出すという作業がとてもやりやすい様子だった。形や色もさまざまあることで、ひもを通しながら、「あおいのにする。」「つぎはさんかくにしようかな」など色や形を意識できるようになっていった。また、自分の思いを言葉にするという機会を作ることができた。

4、5 歳児はさらに小さいビーズのスーパーひも通しを使って遊んだ。色彩の美しさに目を輝かせ、同じ色を集めたり、色を交互にしてつなげたりして楽しむことができた。また、「つまむ」「ひもを持った手を支える」「色を意識する」という動作をおこなうことで、集中力が高まり、他の活動にも良い影響を受けた。

【2～5 歳児】



「生活ジャンボかるた」

低年齢の子供たちは絵カードとして、5 歳児はかるたとして楽しんだ。文字や言葉に親しみを持つよいきっかけとなり、「私の名前の字だ。」など興味を持つことができた。また、カードが大きいので、体を動かしてとることもでき、敬老会などの行事でも活用ができた。

3. その成果と評価

年齢ごとに、手先を使う遊び、体全体を使う遊びを提供し発達を促してきた。創造力をかきたてる遊びの中で、子ども達は夢中になって遊び、子ども達同士でいろいろな遊びへと発展させていった。遊びの中で育んで行った手指の発達は、生活の中でも活用されていた。スプーンやフォークなどがもてるようになる。ボタンが留められるようになる。紐が結べるようになる。遊びの中で身体の発達が育まれていった。

また、子供達は様々な遊びの中でいろいろなことに気がついていった。いろいろな手触りがあること。色に違いがあること。遊びにはルールがあること。そして、何よりも「みんなと遊ぶと楽しい」ということ。遊びの経験をする中で、社会性や協調性を少しずつ身に付けていった。

4. 今後の課題と展望

子ども達の遊ぶ姿や発達の様子を見ていく中で、「遊びこと」が「学ぶこと」であるとよく理解できた。保育者は子どもの発達段階をしっかりとふまえ、よりよい遊びを提供していくことが必要である。

(1) 今後の課題

- ①保育者自身が各年齢の発達段階を知り、今何が必要なのかを考え続けていかななくてはならない。
- ②ただ遊具を与えておくのではなく、個に応じた援助や働きかけをしていく。「あそび」にねらいを持ち、子どものよりよい発達を促していく。
- ③「あそび」は繰り返し行うことで得られるものもある。継続的に楽しめるような工夫を行うようにしていく。

(2) 今後の展望

今回このような助成品をいただいて、改めて子どもの発達や遊びについて考えることができた。子ども達にとって、保育園は多くの時間を過ごす場所となっている。食事をし、午睡をし、友達と笑顔で遊ぶ安心して過ごせる場所である。子どもたちの長い人生においてほんの一瞬の時間なのかもしれない。それでも、かけがいのない時間である。全ての経験が子どもたちのこれからの糧になってほしいと願っている。保育園での経験が子どもたちの「宝物」になれるよう、私たち保育士も心をこめて日々の保育にあたっていきたい。

今後も安全な保育環境を整え、ますますの保育内容の充実に力を注いでいきたいと考えている。

以上